

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792600070		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム一番町		
所在地	大阪府 門真市一番町6番7号		
自己評価作成日	平成27年1月6日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護スタッフ全員が、本ホームは認知症疾患高齢者が入居する「認知症対応型共同生活介護:認知症高齢者グループホーム」であることを。認知症疾患についてを介護スタッフ全員が共通認識をし、入居者様(認知症高齢者)への介護支援をさせて頂いていることを職員全員で確認をし、介護支援をさせて頂いています。ホームの施設長は(株)エフ・エム・シー介護サービスの創業当時から12年に亘りホームの運営に携わり、初号店となった「FMCグループホーム」の開設時に介護スタッフと一緒に作った運営理念と運営方針の継承を本ホームでも実践し、毎朝の朝礼時に唱和をしています。入居高齢者の命をお守りすることを第一に、心穏やかに笑顔で日々を楽しく和やかに過ごして頂けるよう心を込めた介護支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の特色としては、キャリア豊富な施設長のもと、認知症状がきつくて他の施設や同業者の受け入れ拒否等で、行き場のない要介護者を、職員と討議して体験入居を重ね、できる限り門戸を閉ざさず、入居に導くという方向性を保持し、実践されていることである。ホームでの暮らしは、日常的な散歩や、近隣地域に頻回に外出することで、閉塞感を補い気分転換も図られ、また将棋、傾聴、歌その他多様なボランティア来訪や、住民を招いてホームで音楽会を盛大に開くなど、地域との交流も深めている。利用者の暮らしぶりや健康状態などを、写真も豊富にいたれたホームの便りを毎月家族に送付することで、家族の信頼も得ている。提携医師による往診と常勤看護師の健康管理で、医療・健康面の取組みも充実している。事業所独自の工夫点は、浴室の床を滑りにくい床材にして転倒防止に配慮したり、居室天井にオゾン発生器を設置して、快適な生活環境づくりに努めていることがあげられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元に住む認知症高齢者の介護支援をする「地域密着型サービス介護施設」として、そのことを認識したうえで「運営理念」を作成し、管理者を始め介護職員全員が理念を共有して実践につなげています。	「明るく元気に・・・、いつも笑顔で・・・、向上心・・・、尊敬・・・、チームワーク・・・、初心を忘れず・・・、自己管理・・・」等の11項目のホームの心得・理念を作り、職員は毎朝礼時に唱和しながら、共有して実践につなげている。	スタッフで作り上げたホームでのケアにおける心得やマナーとして相応しい理念であるが、利用者が地域の中の、このホームでその人らしく暮らし続ける本人本位の視点を加味した理念形成を期待したい
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の催し物に入居者が参加したり、地元の方や近隣の民生委員様や介護支援関係者に案内状をだしホームでJAZZコンサートを開催したりなど、地域の一員として日常的に双方向での交流をしています。	将棋や傾聴、歌、踊りなどの地域ボランティア来訪を積極的に受け入れている。施設長の熱意で、ジャズコンサートを行い、家族や多数の住民の参加で、利用者と共に楽しむなど相互交流が図られている。地域自治会は活動的でなく、協力は得られていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの玄関に「介護なんでも相談所」の看板を掲げ、地域の方にお気軽に相談に来て頂くような体制を整えています。近隣の民生委員さんなどに参集して頂き「認知症の講習会」なども行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に入居者の1日の生活をご家族に知って頂くために会議の議題として取り上げ日常生活の一部始終を報告したり、担当医師からの医療情報なども報告し、日常生活向上への話し合をしています。	会議は利用者及び家族、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所職員等が参加し昨年は4回開催している。会議では運営状況、行事報告などを行い、参加者からの要望、提案等もでて運営に活かしている。	地域密着型のグループホームとして、運営推進会議は概ね2カ月に1回以上開催が義務規定であり、順守が望まれる。参加者の要件である知見者の参加も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	門真市・守口市・四條畷市とで介護保険の組織「くすのき広域連合」のため、介護法に関する申請や変更届出などは「くすのき広域連合」の本部で行っているため、当該市の担当者との接触は極めて薄いです。	介護保険の更新、申請代行や事務手続き等及び、運営上の相談や報告も広域連合に行う。生活保護の介護、医療扶助関係の手続きで市の担当部署との協力連携を行い、担当ワーカーの定期訪問がある。介護相談員は年1回の訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「FMCグループホーム一番町」は身体拘束のないホームであると宣言しています。が、本ホームは玄関を出ると自動車の走る道路であるため、玄関の自動ドアは電気錠で開け閉めをしています。	身体拘束排除マニュアルに基づいた研修を行い、原則身体拘束は行わない事を明示している。1、2階昇降口ドア、玄関は施錠しており、外出希望には、職員が意向に沿うよう同行で対応している。	出来るだけ散歩や外出の機会を設けているが、施錠による閉塞感や認知症の行動心理症状悪化の影響もあり、日中、スタッフの見守り可能な時間帯から、開錠の試行検討を行うことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームとして虐待防止の徹底を図るべく、虐待防止マニュアルを整備しています。また職員には当該の研修を行い、日頃から虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本ホームには、後見人制度を利用されている入居者が居られ、本制度について認識をしています。以前に本制度の利用についてご家族から相談をされ、積極的にご支援を申し手続きを援助した経験もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関する流れを判りやすく図式化した説明表をつくり、それに沿った入居手続きをして頂いています。重要事項の説明も丁寧に行い、納得して頂いた上で入居契約を締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの要望や意見があれば、それを真摯に受け止め、その対応をする用意は出来ています。また、イベント情報などがあれば、それに参加するなど、意見や要望の実現をする努力をしています。	「一番町いきいき通信」を毎月送付し、利用者個別の健康状態や暮らしぶりも交えて送付している。家族の来訪時やケアプラン見直し、電話連絡等の際に意見要望を聞いている。運営推進会議も利用者と家族の参加を得て、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望がでたら、それを受け入れ実現するために実行をする用意は出来ています。月に1回のカンファレンス時に、それについての意見を求めています。具体的に反映する事案は出ていません。	日頃から施設長が直接に、またはリーダーを通じて意見や要望を聞いたり、毎月のスタッフ会議で機会を設けている。研修補助や、介護の課題等を提起して職員に文章で提出してもらうなど、スキルやレベルアップも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見や要望を尊重し、出来る限りそれらのことが実現できるような環境整備をしています。体制が許す限り、要望は基本的に受け入れています。向上心のある方への応援は惜しみなく援助します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を全従業員に知らせて希望者には会社の経費で研修を受けて貰える環境を整えています。また、資格の向上には厚生労働省の労働環境向上支援制度「ジョブカード制度」の活用も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	門真市介護保険サービス事業者連絡会の入居施設分科会にホームとして入会し、施設長をはじめ管理者と看護師の3名が交替で研修会や会合に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった時点で、その方の情報を出来る限り多く集める為に担当ケアマネジャーをはじめ、ご家族や介護関係者などにヒアリングをし、ご本人の安全と安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長は12年の経験から、認知症高齢者を抱えるご家族の苦悩を深く理解しているので、不安なことや要望について、特に聴くことの重要さを認識していますので、そのような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「認知症高齢者グループホーム」として、認知症高齢者に対して行わなければならないことを強く認識していますので、その都度、それに対する最適な対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の既往歴を知り、その方の能力を見極め、出来ることは自分でして頂いたり、台所や洗濯を手伝って頂いたり、一方的な介護支援ではない「その方の暮らしをして頂く」介助支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様からの希望や要望が出た場合には、それを実現するためにご家族に連絡(報告)し、我々もご家族も共にご本人の要求を叶える支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の馴染みの方が訪ねて来られ関係を保って居られる方がいますが、様々な方が入居されていますので・・・時々、施設長が入居者さまの出身地へドライブに行ったり、その周辺に行ったりしています。	家族の面会の都度、馴染みの喫茶店に出かけたり、数名の入居者に知人の来訪もある。施設長が車で外出時に、入居者同乗で本人の自宅周辺を回り道する試みも行っている。入居後に馴染んだ将棋ボランティアとの交流なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な環境で生活されて来られた方々ですので、社交的な方は直ぐに友だち(仲間)になられますが、他人との協調性がない方も居られますので・・・、その方に合った介護支援をさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設して未だ数年しか経過していないので、そのような状況になっていません。が、そのような状況になれば、そのように努める用意は出来ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方や、そのご家族の希望に添った介助と介護支援計画に努めています。	居室や入浴時など1対1で寄り添って話せる機会などに、本人の生活歴や、日頃の思いや希望を聞き取ることに努め、気付きノートに記して共有している。意思の表出が困難な方には、表情や態度、家族からの聞き取りなどをもとに、本人の意向に沿うように取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の情報(既往歴や生活環境)を出来る限り多く集める為に、担当ケアマネジャーを始め、ご家族や介護関係者などにヒアリングをしたり、看護サマリーや看護サマリー等を収集し、そのように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況(心身状態:血圧・体温・血中酸素濃度・排便排尿などの状況)を観察し、その方の日常のリズムを把握するよに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日常の変化を観察し、ご家族からの要望があれば、それを反映するような介護計画を立案し、その状況をモニタリングしています。	包括的自立支援プログラムの様式によるアセスメントを行い、介護計画を作成している。毎月の職員会議時にカンファレンスを行っているが、モニタリング・評価は計画変更時に実施している。介護計画に基づく、本人の具体的な個別目標の達成状況をスタッフが日常的にモニタリング・記録して、月次に計画作成担当者が評価するシステムに見直すことも検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回は介護スタッフ全員で、その方の日々のリズムや介助を加味した日常についてをカンファレンスして情報を共有した介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでは入居者様の健康を管理する内科の往診を始め、歯科医や整骨院の先生の往診もして頂き、入居者様の生活に必要な多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種(将棋・ギター・ハーモニカ・マジック・踊り・傾聴など)のボランティアさんとの交流を図ったり、クリスマスには生バンドによるJAZZコンサートを開催したり日常生活を楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医が日常の健康管理を行っていますが、入居前に入院や通院をされておられた方には要望があれば、その病院に受診をされる際にはホームの車で送迎をしています。	提携医による月2回の往診があり、現状は入居者全員が受診しており、生活保護受給の入居者も安心な健康管理がなされている。歯科医の往診は口腔ケアも含めて月4回あり、必要な入居者が治療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフでは取り扱えない状況(巻き爪や強度な便秘・女性特有の疾患など)は介護スタッフが看護師に依頼をし、その対応をしています。また、病院での受診が必要な場合には看護師が付き添いをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院に当ホームのパンフレットを持って案内をし、双方で情報交換ができるよう関係を構築しています。また、インフルエンザなどの予防接種についても、市内の病院にて接種して頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームに酸素吸入器を常設したり、介護スタッフに痰吸引の講習会を受講して貰ったり、重度化や終末期に向けた環境整備を行い、且つ、身体的な状況を見極めたうえで、ご家族の承諾のもと入居者様の看取り契約の締結をしています。	看取りに関わる指針を作成して、必要時に説明を行い同意書を交わしている。今まで事業所で、看取りを行った事例はないが、医療・看護・介護の連携のもと、ホームでの対応も視野に入れている。施設長は、「重度化に対する指針」の契約時の説明・同意と、重度化状況時の再確認について、改めて整備することを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを4名、普通救命講習Ⅱを2名、応急手当普及員講習を3名が受講しています。次回の講習会にも介護スタッフの数名が受講する計画をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋の年に2回消防訓練をしています。また、「夜間の一人夜勤体制時を想定した避難訓練」や、突然に災害が発生した場合の「緊急時に対応する避難訓練」も実施し、地元の消防団へも連携を依頼しています。	年に2回消防署指導のもと、法定の防災・避難訓練をAEDの使用訓練も交えて実施している。スプリンクラー、自動火災報知設備も設置している。施設長は、災害時にホームの外に避難した場合の、入居者の見守りの協力依頼を、運営推進会議の機会などに、地域住民に行うことを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の既往歴や、生活環境などを考慮し、それらを認識したうえで、その方の人格を尊重したプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。	理念に「尊敬の意を持ち続け・謙虚な心で挨拶・笑顔で心のこもった介護を・・・」と謳い、人格を尊重した支援の心得を唱和して、常に実践に努めている。呼称や言葉掛けに留意し、指示的態度に陥らない様、接遇の研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食と夕食は皆さまと一緒に「いただきます」から食事をして頂きますが、朝食はそれぞれの起床時間に合わせて食事をして頂くなど、ご本人の思いや希望を出来る限り取り入れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様の生活リズムに合わせて、その方の希望に添った介護支援(その時々にもっとも適切な)を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様によって持参されている洋服や持ち物が違いますので、その方のその環境にあわせて「おしゃれ」や「身だしなみ」ができるように支援させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託している食材やさんの管理栄養士が季節感のある献立を考えてくれていますので買い物には行きませんが、食事の後片づけを手伝って頂くなど、その方の能力に添った支援を行っています。	業者配送の食材を、ホームで担当の職員が調理する。職員も見守りや摂食の介助をしながら、同じ食事を食べている。後片付けや、食器拭きなどを手伝う入居者もいる。月に1度は、たこ焼やケーキづくりなど職員の種々のアイデアを取り入れて皆で作って、食の楽しみの支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はその都度、摂取量を記録しています。その方のその日の状況などを総合的に加味し、足りているか？の判断をし、不足している場合には、それに応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日頃は介護スタッフが誘導し口腔ケアを実施していますが、毎週火曜日には歯科医と歯科衛生士が来所され入居者全員に専門的な口腔ケアをされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の日常を記録し、その方のリズムにやその折々の状況に添った介護支援を行っています。	個人別の生活記録表に利用者ごとの排泄状況を記入し、パターンを把握・共有して、見守りやさり気なく促すことで自立支援に努めている。現在7名の入居者が布パンツで過ごされ、その他の方がリハビリパンツ、パット併用などである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドリンクヨーグルト・牛乳・ヤクルトやバナナジュースなど、便秘にならないような飲料物を日常的に飲んで頂いたり、体操を行って頂いたりなど、薬に頼らない便秘対策を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の用意は毎日していますので、希望されれば毎日浴びるすることも可能ですが、入浴されるか、されないかは、入居者さまの希望に添うようにしています。が、時間帯の設定はホームで管理させて頂いています。	脱衣室、浴室は広めで、滑りにくい床材を使って、転倒防止に配慮している。主に午前の時間帯で、週2～3回の入浴を確保して、希望があれば増回も可能である。拒否気味の方には、日時を変えたり、他の職員が声掛けをするなどの工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせた、自由な状況で支援をさせて頂いています。総体的に早い時間にベッドインをされますが、時には遅くまでリビングでTVをご覧の入居者様もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さま個々に氏名が入った薬箱があり、その薬箱から、朝・昼・夜のお薬をだして服薬して頂いています。スタッフは誤薬誤飲がないように日々緊張感を持って服薬管理をし、お一人お一人に支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルゲームが得意な方にはパズルセットを提供したり、将棋が好きな方には将棋のボランティアさんに来て頂いたり、塗り絵の好きな方には塗り絵キットを提供したり、それぞれに合った支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーに買い物に行ったり、時には大型ショッピングセンターに行ったり、ハイキングを兼ねて鶴見の「咲くやこの花館」や枚方の「山田池公園の菖蒲園」に出かけたり、地域交流の一環としては、地元の「だんじり祭り」を見学に出かけたりしています。	体調に配慮しながら、できるだけ頻回に近隣の公園の散歩や、車で外出する機会を作っている。スーパーやホームセンター、100円ショップで買物をしたり、喫茶店や回転寿司で飲食も楽しんでいる。季節の行事で遠出を企画し、ボランティアの支援も得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から、1万円程度をお預かりし(個々の金銭出納帳にて金銭管理を実施)、外出時にそれで買い物したり、個人の嗜好品を買ったりしています。自販機でジュースを買うのを楽しみにしている方も居られます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を利用してご家族とお話しをして居られる入居者さまも居られますし、ご自身で携帯電話を持参されておられる入居者さまも居られます。介護スタッフの誘導のもと年賀状を書かれた方も居られました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室も共用空間も入居者さまにとって不安がないように、馴染めるように、それぞれの顔写真や絵画や看板を貼ったりして居心地のよいように工夫をした飾り付けを行っています。入居者様の作品も掲示しています。	玄関入口の横に事務・スタッフ室があり、中央に窓の日差しが入る広いリビング兼食堂と周囲にキッチン、浴室、トイレが配置されている。その奥に廊下を挟んで居室があり、突き当りに非常口ドアがある。共用空間はゆとりがあり見通しや動線も良い。壁に利用者の手づくり作品や行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	4人掛けのテーブルには各人の席にお名前を書き入れたりソファを置いたりテーブルに花を飾ったりしてゆったりを和やかに過ごせるように工夫をしています。お独りが好きな方には独りになれる空間を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	女性の入居者さまは自宅で使っておられた鏡台を持参されています。お家に飾っておられた絵画や、愛用のタンスを持参されておられる方もおられますし、特殊なモノとしてご主人の位牌をお持ちの方もいます。	居室にはベッド、エアコン、物入れが設置されている。天井にオゾン発生器が取り付けられ、室内の空気の清浄脱臭が図られているのが特長的である。利用者は夫々使いなれた家具、調度品、写真や飾り物などを持ち込んで、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は完全フラットに、廊下には手すりを、トイレやお風呂場にも手すりを取付け、「できること」の工夫をしています。トイレのドアには大きな「トイレ」の看板を掲げ「わかること」の工夫もしています。		